

麻疹・風疹は学校保健安全法で第二種学校感染症に指定されています。

麻疹はワクチン接種の取り組み強化により、過去3年間麻疹感染が確認されていないことから、WHOより、2015年3月に日本の麻疹は排除状態であると認定されました。

一方、風疹は2012～2013年に大流行しました。感染患者の約9割がワクチンを接種していない成人で、女性より男性が3倍多く発生しました。2018年も2000人以上の風疹患者の報告があり、2013年、2012年に次いで、近年では3番目に風疹患者の多い年になりました。

麻疹は空気感染・飛沫感染で伝染します。10日前後の潜伏期を経て、39～40℃の高熱、全身倦怠感が出現し、一旦解熱した後再び発熱し発疹期となります。全身に融合する赤い発疹、口腔粘膜の白い発疹（コプリック斑）、眼の充血、咽頭痛や咳などの風邪様症状が出現し、5日ほどで解熱とともに発疹が色素沈着化して治ります。

麻疹は解熱後3日までは登校禁止で、成人もこれに準じます。麻疹は通常、麻疹に感染したここのない小児の他、ワクチンの接

種を受けても免疫が獲得できなかった成人も感染します。成人が麻疹に感染した場合は、症状が軽くすむことや、肺炎を合併して重症化するなど非典型的な経過をとります。ただし、前述したように、現在では麻疹は排除状態であり、麻疹感染を過度に心配する必要はありません。

風疹は飛沫感染で伝染します。潜伏期間は2～3週間で、発疹・発熱・リンパ節腫脹を呈します。麻疹とは違い、発熱と発疹は同時に出現し、粟粒～米粒大の発疹が融合せず全身に拡大、5日ほどで色素沈着を残さず消失します。発疹と同時に、眼の充血、口腔内の出血斑が出現します。頸部のリンパ節腫脹も発疹出現の前後で見られます。風疹の症状は、小児では比較的軽くすみますが、成人では、治癒までの期間が小児より長く、発熱、全身倦怠感、関節症状などの風邪様症状が強く出ることがあります。また発疹も、麻疹の発疹のように、融合し色素沈着をともなうこともあります。

風疹は、発疹が消失するまで登校禁止で、成人もこれに準じます。妊婦が風疹に感染すると、胎盤を通じて胎児が感染し、先天性風疹症候群という眼症状、心奇形、

難聴、精神発達障害などの先天性奇形を生じることがあります。妊娠初期ほど先天性風疹症候群にかかる割合が高くなり、その症状も重複することが多くなります。

麻疹・風疹ともに予防が最も大切です。2006年から1歳児と就学前1年の、麻疹・風疹ワクチン（MRワクチン）2回接種が行われるようになりました。2008年からは、中学1年生と高校3年生にもMRワクチンの接種が始まりました。小学校就学前の2回接種を95%以上に高めることが、麻疹・風疹感染の根絶につながるかと考えられています。

風疹は終生免疫と考えられていましたが、最近では免疫が自然に減弱するといわれています。そのため妊婦が風疹に再感染し、児が先天性風疹症候群を発症する可能性もあります。妊娠前には風疹抗体検査を行い、抗体のない場合はワクチンの接種を行うようにすると安心です。

麻疹も風疹も特効薬がなく、予防接種による予防対策が必要です。自身に抗体があるかどうか心配であれば、医療機関で抗体検査をしてもらうといいでしょう。

### 日曜・休日に実施している医療機関

午前10時～午後4時

月日	場所	施設名	科目	電話(048)	場所	施設名	科目	電話(048)	
3	3	朝霞	塩味クリニック	内・小	461-6100	新座	志木耳鼻咽喉科医院	耳・気	472-9555
	10	志木	はんだ内科クリニック	内・消内・循内・小	486-2327	和光	佐々木眼科医院	眼	467-0071
	17	新座	志木小児科・アレギー科クリニック	小・アレ	481-1064	和光	新倉診療所	内・外	467-1155
	21	和光	和光クリニック	内・アレ・リウ	468-2115	志木	内田耳鼻咽喉科医院	耳・気・外	473-3387
	24	新座	高橋医院	内・小	478-2689	新座	城西内科クリニック	内・呼内・糖内	042-421-9321
	31	志木	岩崎小児科医院	小・内・皮	474-7474	新座	中島眼科	眼	479-1313



※当番医は変更になる場合があります。確認してからお出かけください。